

プログラミングに没頭した少年時代でしたが、もう一つずっと頭の中にあつたもの。それは「お金」のことです。父親は将来を囑望された陶芸家でしたが、四十一歳で病気によってこの世を去ってしまいました。僕が小学三年生の時でした。それまで両親と姉弟五人の七人家族でとても幸せに暮らしていましたが、父親の死を境に、お金に困るようになっていきました。お金のことを心配する母親を見るたび、幸せだった林家を取り戻し、母親を楽にさせたいと考えるようになりました。

母親は父親の跡を継いで陶芸の道に進んで欲しかったのだと思えます。けれど、幸せだった林家を取り

幸せな林家を再び

お生
高
林

戻すために早くお金を稼いだかった僕は「お金持ちと言えば社長」という単純な考えから、社長になれるよう、中学生の頃から世の中の社長が紹介されるようなテレビ番組を好んで見たり、ビジネスに関する雑誌を読んだりしていました。

そんな少年期から起業するまでに約十年。そして事業が軌道に乗るまでさらに十年、計二十年もの時間が必要でした。楽にさせてあげたかった母親も、創業間もない頃に脳梗塞で倒れ、二度目の脳梗塞で意識不明になってしまい、それからしばらくして亡くなりました。僕の将来に期待して何でも自由にやらせてくれたのに、心配ばかりかけたうえ母親に親孝行ができなかったことが今でも悔やまれます。

(エイチーム社長)